

平成24年度文化庁日本語教育大会 地域へ情報発信！コミュニティラジオの力



須本 エドワード(ラジオパーソナリティー)
金 千秋(特定非営利活動法人エフエムわいわい)

平成24年度文化庁日本語教育大会 地域へ情報発信！コミュニティラジオの力

- 前半

多文化共生のまちづくりの「場」としてのラジオ
金 千秋（特定非営利活動法人エフエムわいわい）

- 後半

第二世代の発信力を育む発信・表現・共有
須本 エドワード（ラジオパーソナリティー）

多文化共生のまちづくりの「場」としての ラジオ FMYY総合プロデューサー 金千秋



20120831

文化庁日本語教育大会

3

1995年1月17日火曜日朝の5時46分 都市型直下地震⇔都市機能の崩壊



神戸の震災被害



- 高層ビルの倒壊
- 高速道路、鉄道高架の倒壊
- 脆弱な木造家屋の全壊と大規模火災

地域的な違い(土地柄・経済・歴史)が 被災にも顕著に現れる/長田の火事



当時の カトリックたかとり教会



被災地での外国人の状況

- 在日歴が長い、日本文化に精通、日本語に不自由がない、外見が外国人に見えない
しかし避難所で本名を書かない。必要情報をコミュニティにとりに行く(華僑・民団・総連)
- 在日歴が短い、日本文化がわからない、日本語が不自由、明らかに外国人とわかる、
情報弱者、避難所、公園などでのトラブル、日常にあった異文化による壁が、災害時により顕著になった。

震災の混乱時、なぜ外国語での放送をするという発想が生まれた？

非常時に現れる地域にある日常の問題

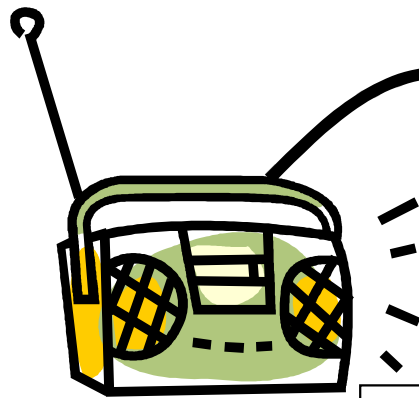
在日コリアンの関東大震災の朝鮮人虐殺の記憶

⇔避難所にいた地域の在日コリアンは本名で登録しない！

⇔在日コリアンとバレないため。。。

震災の混乱時、なぜ外国語での放送をするという発想が生まれた？

信頼できる情報は、利害を共にするもの
避難所の在日コリアンを探し出す
大阪生野のミニFMサランのアイディア
放送を流す⇔避難所に捜しに行く



相互連絡をとる、ローテクのSNS

関東大震災の記憶とは(資料)

- 1923年9月1日11時58分死亡・行方不明10万人
- 警察・新聞→朝鮮人の暴徒化を発信
- 朝鮮人・中国人・地方出身者・聾啞者など虐殺

- 時代背景が大きな影響
 - 教育・人権意識の低さ
 - 情報は、新聞のみ
 - 新聞社の壊滅
 - 集団的ヒステリーの伝聞
 - その伝聞を記事にする
 - 外国人の日本語教育は不完全



ボランティアの建てた FMわいわい



20120831

文化庁日本語教育大会

炊き出しで 市民権を得たキムチ



20120631

文化庁日本語教育大会

音楽も多様な言語・調べで♪



20120831

文化庁日本語教育大会

14



日本の中の
マイノリティ
アイヌ・沖縄・
奄美・沖縄良
部の歌や踊り

仮設での演歌
カラオケ
年齢も様々



多様な文字表現 地域の市場からも放送 出演者は地域住民



20120831

文化庁日本語教育大会

地域にある多文化を 顕在化するイベント



20120831

文化庁日本語教育大会



多文化企画 出演者は 地域在住 外国人たち



多文化理解者を地域で獲得



透明人間としての存在⇔日本語を介して⇔ 内在された力の発露、顕在化⇔地域力

- ラジオで話す⇔日本語力のアップ
- さらにアップ⇔翻訳・通訳の仕事
- 民族芸能・(歌・踊り・演奏)⇔イベント出演、教室開催、多文化講師
- 映像制作・ITスキル
- 民族料理⇔地域出店、屋台出店



東日本、災害臨時FMへの支援

- 発災時→命
- 緊急時→支援情報
- 復旧・復興の道・時間



多様な状況の一人ひとりへの情報発信
言語、経済、情報の受け取り方法



気仙沼のフィリピン人コミュニティ

母語と日本語のよる番組制作を依頼

地域の人材としてのエンパワメントの発芽

気仙沼FMへの参加⇔
嫁/妻/母だけではなくバイリンガルの人材として



2012年仙台、石巻、気仙沼での聞き取り

- 東日本の在住外国人→日本人の配偶者＝妻、母、嫁だけではなく、地域の中の人材として生きてゆきたい。
- 来日後の日本語教育の「場」と受け入れ家庭の多文化教育を求めている。
- 「もちろん」母国語取得の「場」は必須



法制度、行政条例の制定が望まれる

多言語コミュニティラジオが担う役割

まちづくり＝人づくり＝地域力づくり



➤ 日本語の取得

➤ 地域情報を国内外の同じ言葉を使う人に発信

➤ 母語を保持することの有用性＝本人の尊厳と次世代の力

➤ 人材の豊かさ

第二世代の発信力を育む 発信・表現・共有

須本エドワード

ミックスルーツ・ジャパン代表



20120601

文化庁日本語教育大会



20

日本語力を育み繋げる

- 英語:ESLとEFLの違い→日本語 as second language
- 言語習得と能力持続のためのモチベーション
 - ソーシャルネットワーク
 - 社会参加率
 - 帰属意識
 - 個別のスキルに対する柔軟性
 - 「要支援者」からのいち早い卒業
 - ロールモデルとの接点

ミックスルーツラジオ

- 日本＋αの（文化又は人種的）ルーツを持つ国内外の人々のインタビューと情報共有
- 日本に似合った多文化社会モデルを考える社会対話を促進する
- 様々な社会層とバックグラウンドの第2世代以降の発想力・表現力を引き出すための活動の一環
- 日本語での放送と記録で地域社会、日本中に発信する

ツール

- ラジオも言語もコミュニケーションのツールであり、目的ではない
- ツールを使いこなしている先駆者・先輩方をロールモデルとして取り込む重要性
- バイリンガルを目指すのではなく、地域社会参画を促す:「要支援者」ではない大勢の外国人はただ裕福なわけではなく、自立した何らかのコミュニケーションの術・能力・環境を持っている
- この知見を得て共有するために聞き取りを行い、活動にも反映する

なぜ日本語か？

- 文化、価値観、社会的な通りとルールを共有するため
- 地域社会・住民に受け入れられるため
- 個人の社会的位置向上のため
- 帰属意識を育むため？
- 多くの第二世代の若者は「母国」や「第三国」にあこがれを持つ
- 渡航先も日本でも受け入れられない気持ちになる
- 日本語を熟知していても「えらいね・すごいね」、英語・母語が喋れないと「なんで・もったいない」

ミックスルーツとしての日本語

- 喋れて当たり前と思われる日本で暮らす、日本人顔のミックスルーツ
- 喋れて特別と思われる日本で暮らす、外国人顔のミックスルーツ
- 喋れて特別と思われる海外で暮らして来たミックスルーツ
- 日本語がネイティブでも社会参加が難しいミックスルーツ(容姿、名前、国籍)
- 日本との接点・文化的な資産を得るために必要な日本語

ミックスルーツの声の紹介

「日本語に対する思い」

- 国内のミックスルーツ
- 海外在住の(日系)ミックスルーツ
- 国内のミックスルーツの親御さん